

平成十七年度入学試験問題

国語 一〇一

(前期日程)

出題意図

概要

高等学校卒業程度の学力にふさわしいと考えられる範囲内で、文章を理解・把握する上での基礎的な学力、及びセンター試験では測定することのできない文章表現力を問う。

第1問

短いエッセイの読解を通じ、論理的な文章における基本的な約束事を把握できるかどうかを問う。

問1 基本的な語を文脈に応じて適切に選べるかを問う。

問2 指示語の内容が適切に理解できるかを問う。

問3 四字熟語の読み及びそれを含む箇所の意味が理解できるかを問う。

問4 カギカッコの一般的な用法を理解しているか、また文脈に応じた個別の用法の論理的説明ができるかを問う。

問5 比喩による説明の正しい文脈における理解ができるか、またそれが説明できるかを問うことで、問4と共に基本的な読解力・表現力を試す。

第2問

散文を取り上げ、記述内容の正確な把握並びにそれを的確に文章化する学力を問うとともに、文学史についての知識をも問う。

問1 文学史の知識を問う。

問2 文脈上から適切な語句を考えだす、或いは探しだす力を問う。

問3 文脈の要をおさえる力を問う。

問4 筆者の意図を、自分なりの文章で明瞭かつ的確に説明する力を問う。

問5 文脈の要をおさえて明瞭かつ的確に説明する力を問う。

第3問 (選択)

平易で比較的短い文章の全体を正確に把握できるかということを、主として現代語訳

と内容整理の形で問う。把握した内容を適切に自分の文章で書き表せるかという文章力をも併せて問う。出題は近世の文章からであるが、文体は中古の標準的なものとそれほど大きく相違するものではない。

問1 文法力をみる問題で、文章全体の中で文法的に把握できるかを問う。

問2 現代語訳並びに抜き出しによる内容把握の力を問う。

問3 現代語訳の力を問う。

問4 内容把握の問題。ポイントとなる箇所を正確に見抜き、その箇所を現代語訳するだけでなく、設問に問われていることの答えになるよう文章化する力をも問う。

問5 内容把握の問題。ポイントとなる箇所を正確に見抜き、その箇所を現代語訳するだけでなく、設問に問われていることの答えになるよう文章化する力をも問う。ただし、問4より、現代語訳に手を加える必要が大きい。

第4問（選択）

儒教・道教・仏教の三教が人の生死についてどのように考えていたかの理解度と古典漢文に頻用される構文の理解度とを併せ問う。

問1 中国の文学や思想に多大の影響を与えた三教について問う。

問2 ①は、反語文を正確に読み理解できるかを問う。②は、前の「両語」の指す意味との関連で本文を理解できるかを問う。

問3 前文の生死との連関と蓋然文の理解を問う。

問4 長文であってもA不如B（AはBに及ばない）の構文に置き換えて考えれば、読解が容易になることに着眼できるかを問う。